

2011年度 SCAN 発表論文

「釧路市及び釧路町の小・中・ 特別支援学校における「地域教 材」の活用に関する実態調査」

北海道教育大学釧路校

宮前ゼミ

会田 真拓

阿部 元樹

金野 結

瀧澤 美沙

林 宏一郎

村松 由季

森 恵太

2011年12月

論文概要

私たちは北海道教育大学釧路校の地域教育開発専攻に所属している。同専攻では学校と地域との関わりや繋がりを重視し、そこから、学校だけでは補うことの難しい教育効果について体験的な活動を通し学習している。活動の具体例を挙げると、地域が取り組んでいるお祭りに運営の段階から参加させていただき、そこで子どもたちとの関わりを知ること、「森の学校」という自然体験活動を子どもたちと共に行うことなどが挙げられる。人との関わりや自然との関わりなど、幅広い活動をしているが、共通して言えることは、その「地域」にあるものが重要であるということである。

地域との関わりが薄れていると叫ばれている今日、地域を理解する活動がますます求められている。私たちは上記のような活動を通し、地域理解には体験的な活動が影響するものだと考える。そこで私たちは教育大学の学生という立場から、地域の将来を担う子どもの成長のために地域の持つ素材を有効に活用する方法を考えて、有効であると感じ、地域の学習素材に関して提言していく。

そこで本研究では、釧路全域の学校と地域との関わりの実態を知ることが目標とする。具体的方法としては、アンケート形式で釧路市及び釧路町が行っている地域との関わり方、利用の仕方の調査を行う。そこから得られたデータを分類することで分かる、傾向や特徴を知ることによって提言に繋げていく。

論文目次

I 研究方法

- I-1 アンケートの目的
- I-2 アンケートの概要

II アンケート結果の分析と考察

- II-1 項目別整理
- II-2 類型別整理

III まとめと課題

参考文献

I 研究方法

I-1 アンケートの目的

今回私たちは、釧路市、釧路町にある小、中、特別支援学校にアンケートを送付し地域教材の実践、その実情を調査した。地域教材の明確な定義は決められておらず、その定義を釧路市、釧路町の学校ではどのように捉えているかを知るという目的があったため、あえて私たちは定義付けをしなかった。各学校の地域教材に対する取り組み、地域性、学校の規模、取り扱っている内容から比較検討し、今後、私たちが地域復興につながる具体的な地域教材を提言するための前段階として行ったアンケートである。

I-2 アンケート概要

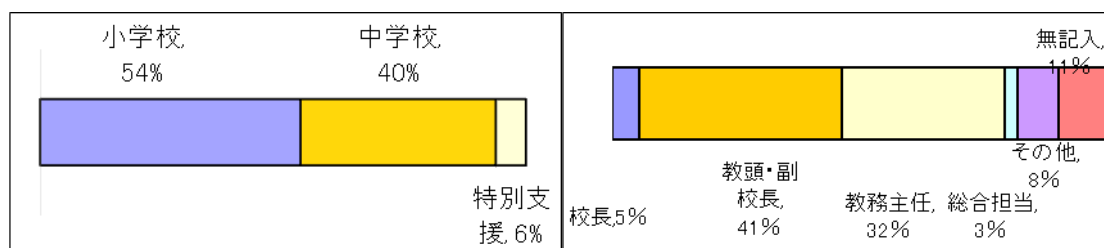
アンケートの回答項目は、学校種別、ご記入者、児童生徒数、教職員の数、学校の所在する地域(農業、漁業、林業、商業、工業 住宅、牧場の7種)、そしてどのような地域教材が使われているか、また、その取り扱う理由である。次のグラフは送付先と回収率の一覧である。

図 1 アンケート送付先と回収率(釧路市・釧路町の合計)

学校種別	送った校数	回収した校数	割合
小学校	34	21	62%
中学校	21	14	67%
特別支援学校	3	3	100%
合計	58	38	66%

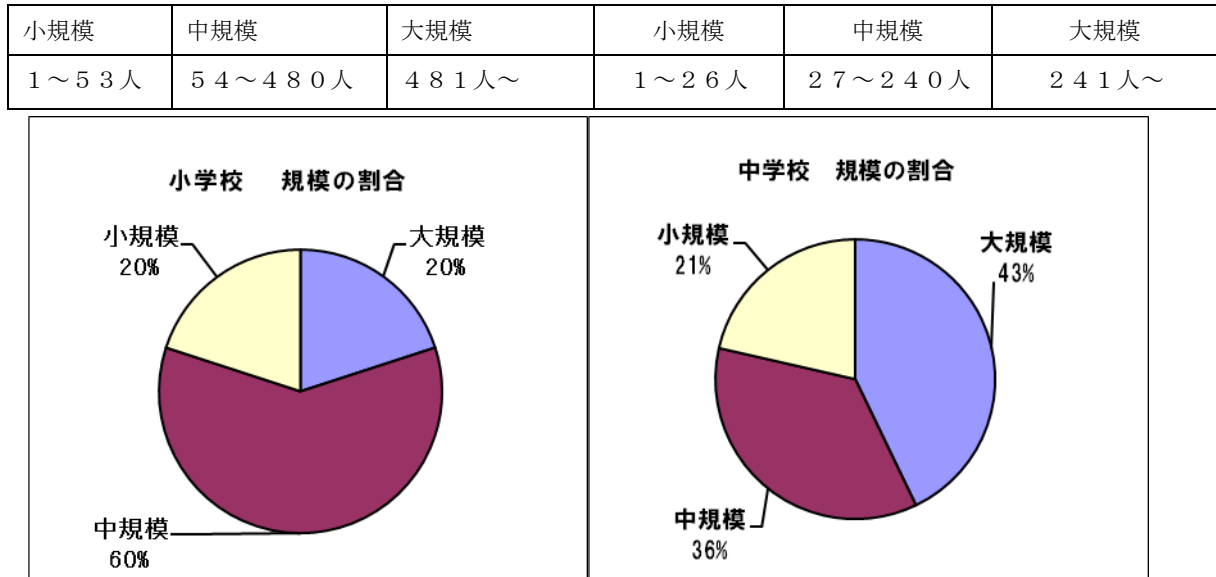
次に学校種別・記入者の割合である。

図 2 学校種別・記入者の割合



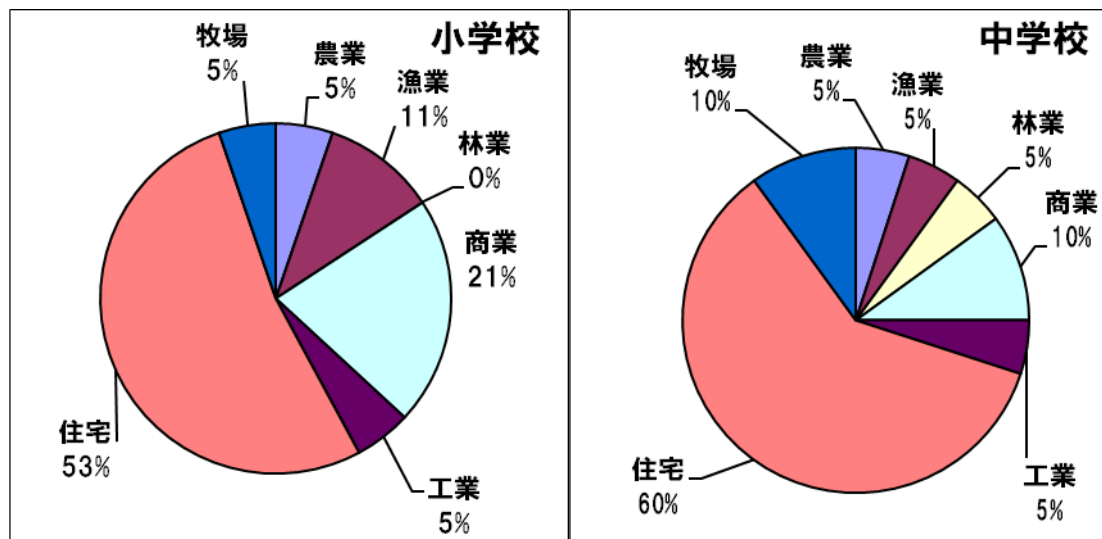
次に規模の割合のグラフである。

図3 小・中学校における規模の割合



ここでの規模の定義は、実際に文科省が定めるものとは異なっている。その定義付けにあてはめると釧路地方ではデータの差別化が困難だったため私たち独自で分類を行っている。

図4 小・中学校における地域別割合



上記のデータ、グラフをふまえて第II章では独自に10項目に分類してさらに分析、考察を進めていく。

Ⅱ アンケート結果の分析と考察

Ⅱ - 1 項目別整理

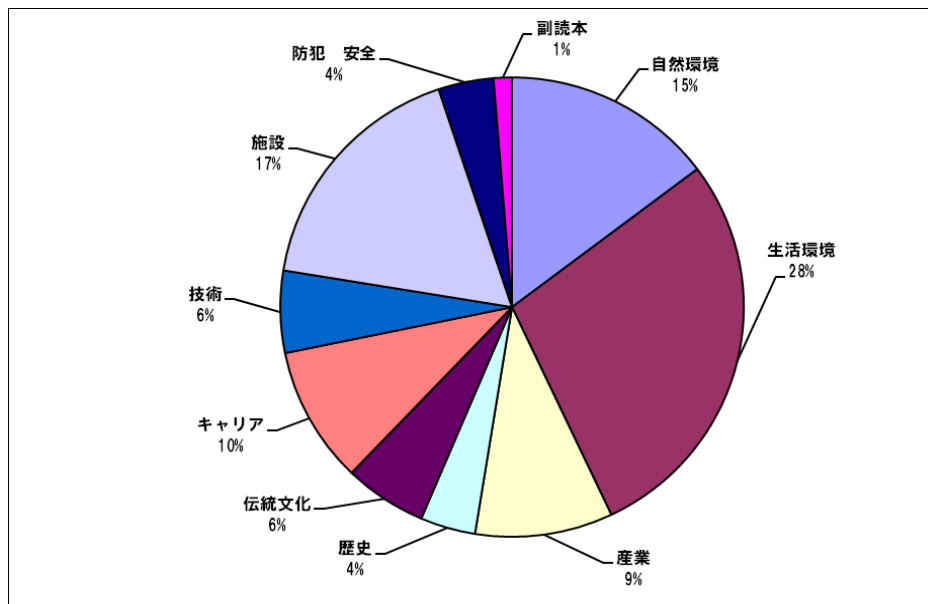
私たちはアンケートの回答をもとに、釧路市・釧路町内でどのような地域教材がどのように活用されているのかを把握しようと考えた。そこで、まず始めに「項目別整理」について述べていくこととする。

図5 取り扱われている地域教材

項目	小	中	特	全体	具体例
①自然環境	20	3	0	23	『磯の観察学習』 『森の探検』
②生活環境	33	11	3	47	『釧路のまちを調べよう』 『地域の食文化』
③産業	11	4	0	15	『酪農や農業』 『王子製紙』
④歴史	6	0	0	6	『竪穴式住居の調査』 『戦争体験者』
⑤伝統文化	6	3	0	9	『太平洋太鼓』 『ムックリの演奏』
⑥キャリア	2	13	0	15	『職業体験』 『進路に関する学習会』
⑦技術	6	3	3	12	『部活動』 『生け花クラブ』
⑧施設	21	6	4	31	『美術館』 『公園利用』
⑨防犯・安全	6	0	0	6	『集団下校訓練』 『防火施設見学』
⑩副読本	2	0	0	2	『「くしろ」の利用』

私たちはアンケートの回答内容を「地域教材の性質」という観点で次の10項目に整理した。その項目は、①自然環境、②生活環境、③産業、④歴史、⑤伝統文化、⑥キャリア、⑦技術、⑧施設、⑨防犯・安全、⑩副読本とし、地域教材の性質を見た上でこの10項目に分類した。その項目について、学校種別でみた実践例の数と具体例を載せたものが図5である。①自然環境の項目を取り上げると、取り扱われている地域教材の中でこの項目に該当するものは小学校で20、中学校で3、特別支援学校で0となっており、釧路市・釧路町内の学校で計23の地域教材が取り扱われていることがわかる。具体例としては「磯の観察学習」「森の探検」が挙げられ、地域の自然や学校に近隣の公園などを用いていた活動がされているとわかる。

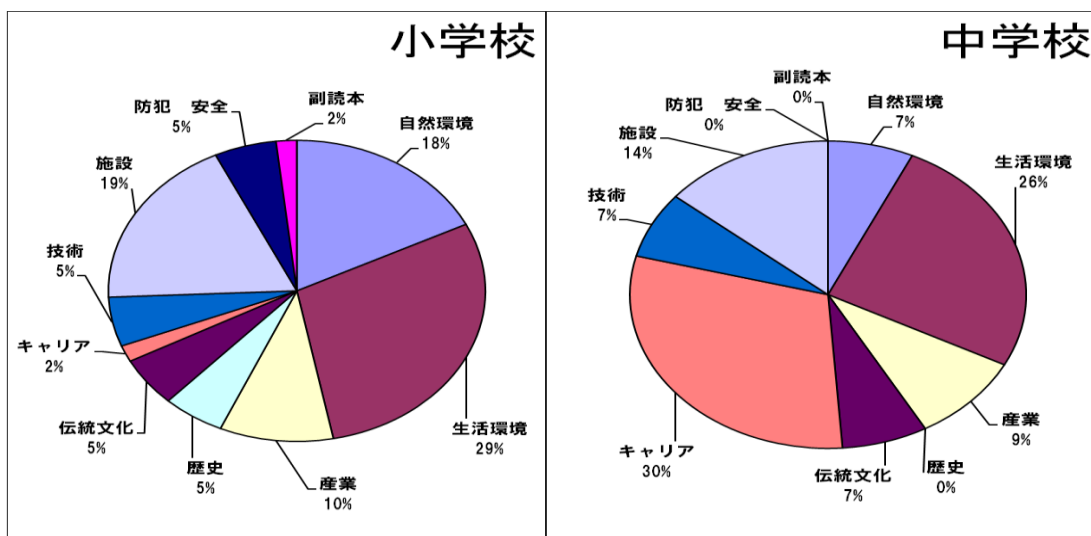
図6 地域教材の項目別の割合 小中学校全体



次に私たちは、図5で示した10項目のうち、地域教材がどの項目で取り扱われているかを割合でみることにした。図6は小・中学校全体でみた割合を示したものである。特別支援学校については、データ数が少ないことから普遍性が見られないと判断した。よって、割合には含まず、実践内容を参考にした。

図6から2つのことが言える。1つ目は、「自然環境」「生活環境」「施設」の項目の割合が目立つということである。このことから、小・中学校では「自然環境」「生活環境」「施設」という3つの項目で地域教材が主に取り扱われていることがわかる。2つ目は、「副読本」項目において1%しか取り扱われていないことである。それによって、副読本を地域教材と捉えている学校はごく少数だということが判明した。

図7 地域教材の項目別の割合 小・中学校別

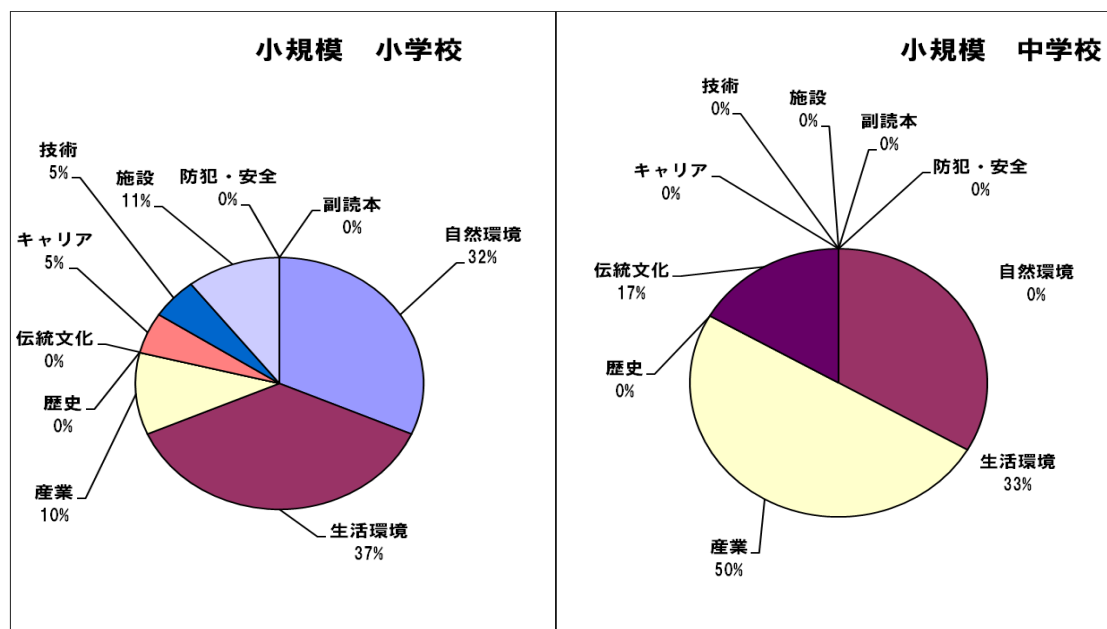


そして小・中学校全体での割合を受けた上で、更に小学校・中学校それぞれで割合を示したものが図7である。

図7にある小学校のグラフと中学校のグラフを比較してみると、まず「自然環境」項目については小学校18%、中学校7%と大きな差が見られた。これは「自然環境」項目にある地域教材が、特に小学校において取り扱われていることを示している。また、「キャリア」項目について見ると、小学校2%、中学校30%とわかった。ここでの大きな差から、「キャリア」項目に関する地域教材は、小学校よりも中学校で多く取り扱われていることが判明した。この原因は、小学生と中学生の発達段階の違いによるものだと私たちは考えた。また、もう1つ注目した項目は「防犯・安全」「歴史」の項目である。この2つの項目をみると、どちらも小学校で割合が高く、中学校では全く取り扱われていないことがわかる。「防犯・安全」項目の具体例としては「集団下校訓練」や「防火施設見学」があり(図5参照)、それらは中学校の段階ではあまり取り扱われないと考えられる。また「歴史」項目については、小学校の社会科では日本国内や自分の住む地域を取り上げるため、地域教材が扱いやすいと考えられる。

一方、中学校の社会科では北海道外や世界について触れることが多くなるため、地域教材が必要とされないのではないかと私たちは考えた。次に、私たちは「地域教材の性質」10項目にアンケートで明らかとなった「学校規模」を関連させて考えることにした。

図8 小規模校の項目別割合

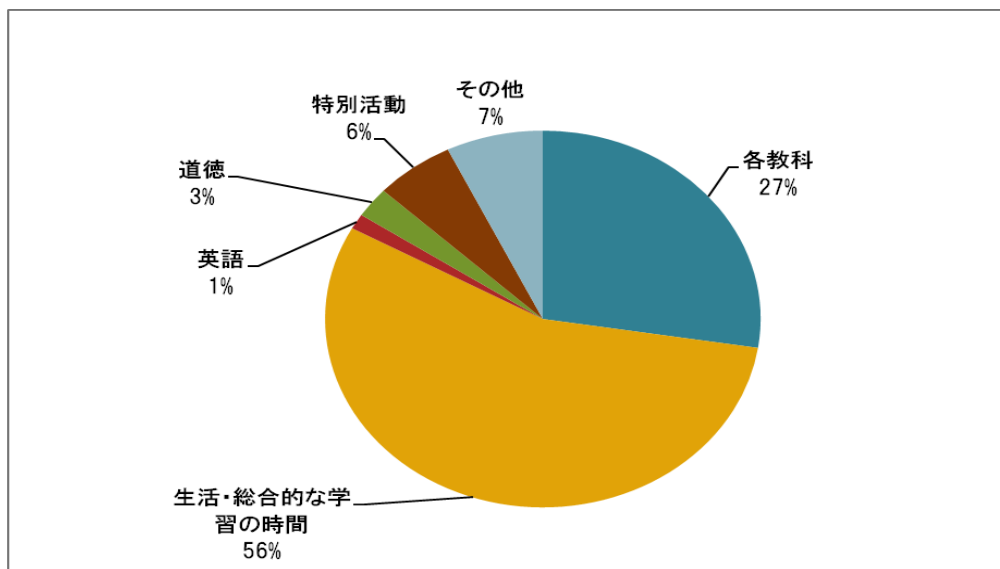


学校規模については小・中・大規模全ての項目別割合をグラフ化し分析した。しかし、地域教材の性質と学校規模との関連性が見えたのは小規模校のみであった。よって、小規模校についてのみを取り上げる。

小規模校では、「防犯・安全」「歴史」「伝統文化」の項目が小・中学校共に0%であった。このことから、この3項目に関する地域教材は小規模校で全く取り扱われていないことがわかる。小学校においては「防犯・安全」「歴史」「伝統文化」の項目に関する地域教材が取り扱われていたが(図7参照)、それは小規模校ではなく中・大規模校で行われているものであったということになる。同じように、中学校は「キャリア」項目に関する地域教材が取り扱っていたが(図7参照)、小規模の中学校では全く取り扱っていないと判明した。これらのことから、小学校・中学校というそれぞれ同じ枠組みの中であっても、小規模校と中・大規模校では取り扱う地域教材の性質が異なるということがわかった。

ここから少し着眼点を変え、小・中学校において地域教材がどのような時間(教育課程)に取り扱われているのかを整理し考察した。

図9 地域教材の課程別活用状況



地域教材の活用状況については、内容や目的と共に、教育課程についても回答して頂いた。教育課程は、①各教科、②生活・総合的な学習の時間、③英語・外国語活動、④道徳、⑤特別活動、⑥自立活動、⑦その他と設定した。生活科が各教科ではなく総合的な学習の時間と同じ枠組みになっているが、これはアンケート調査の前段階に、生活科で取り扱われている地域教材は多いだろうという私たちの推測があったからである。この推測から、各教科の中でも特に生活科を重点におき、生活科を②の枠組みに含めることにした。また、数値には含まれていないが、特別支援学校でも①各教科や⑥自立活動において様々な地域教材が取り扱われていた。

図9をみると、②生活科・総合的な学習の時間56%、①各教科27%というように、この2つの枠組みの割合の大きさが顕著に表れた。このグラフによって、地域教材が②生活科・総合的な学習の時間、①各教科の課程において多く活用されているという傾向が明らかとなった。

以上のような整理の結果、私たちは釧路市・釧路町内で取り扱われている地域教材について2つの共通点を見出した。1つ目は、どの地域教材も「釧路地方という場」で取り扱われているということであり、2つ目は取り扱っている地域教材がどれも「釧路地方に存在する」ということである。「釧路地方にある場所で、釧路地方にあるものを取り扱う」ということは当然のことかもしれない。しかし私たちが調査前に考えていた「地域」の範囲は、「校区」というより狭いものであった。地域教材というのは教育現場では、「釧路地方」という広い範囲を捉えられていると判明した。

ここまで整理した結果、私たちは現場の先生方との地域教材に対する捉え方の違いを知り、「地域教材とはどのようなものを指すのか」という疑問を抱いた。この答えを突き詰めるため、私たちは基準となる考えを持って分類していくことにした。その基準とは「地域教材とは、身近な地域(特に校区内)のものをその場所で取り扱っているもの」、尚且つ「体験的な活動を通して取り扱うもの」とした。これは私たちが持つ概念であり、この基準のもとで類型別に整理し、今後地域教材を提案するための前段階とした。次の章からは、アンケート回答の類型別整理から明らかになったことを論じていく。

II-2 類型別整理

私たちは取り扱われている地域教材を次の二つの観点から整理してみることにした。それは、「校区内にあるものか否か」「地域特有であるか」である。この2つの観点から私たちは次の4つに類型化した。

- A ……校区内にあるものであり、地域特有である
- B ……校区内にあるものであり、地域特有ではない
- C ……校区内にあるものではないが、地域特有である
- D ……校区内にあるものでなく、地域特有でもない

の4分類である。次にその4分類を整理、グラフ化した図を参照しながら考察、分析を述べていく。

図10 類型別割合

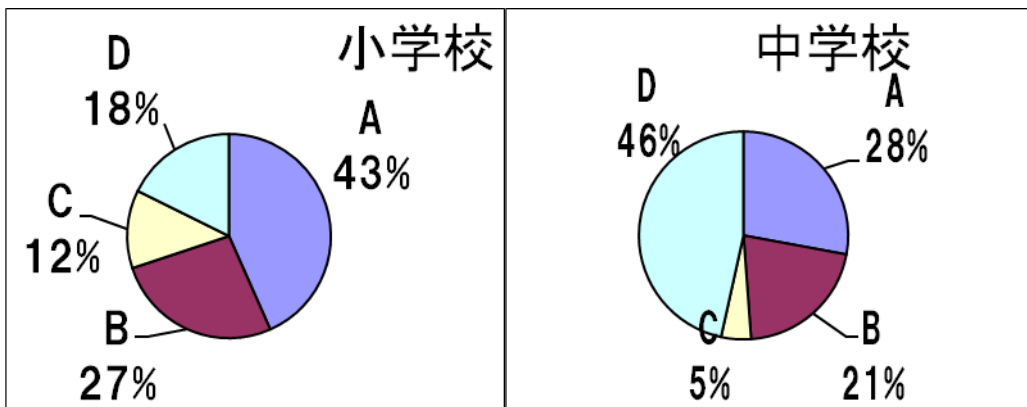


図10をみると小学校はA・B分類の割合が多く、中学校ではD・A分類の割合が大部分を占めていることが分かる。このことから、小学校教育では、学区内の身近な場所で積極的に地域教材を活用している傾向が見て取れる。中学校では、学区内などは重視せず教材は広範囲に及ぶということが見て取れるであろう。小学校では、地域に積極的にでていき、そこでの触れ合いや、活動の中から児童は社会のマナーや常識をしり、倫理観の形成を図っているのではないだろうか、それこそ今回の学習指導案改正で重視されている「生きる力」これの育成に各小学校が尽力している結果と見て取れる。反対に中学校では、地域教材よりも、高校受験や就職のための学習を重視しており、小学校との違いが如実にでた結果となった。確かな学力は保障されるべきではあるが、勉強のきっかけとしても地域教材があることを忘れてはならない。

図11 小学校類型別割合

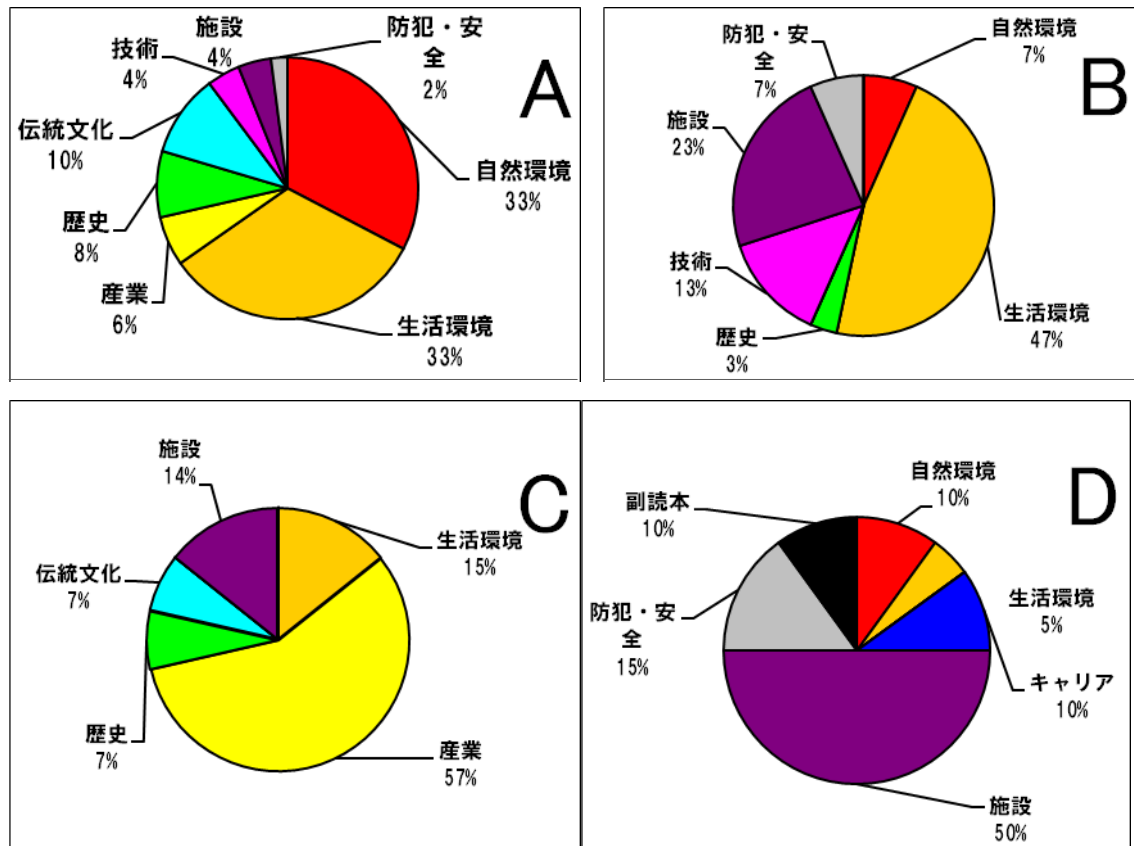
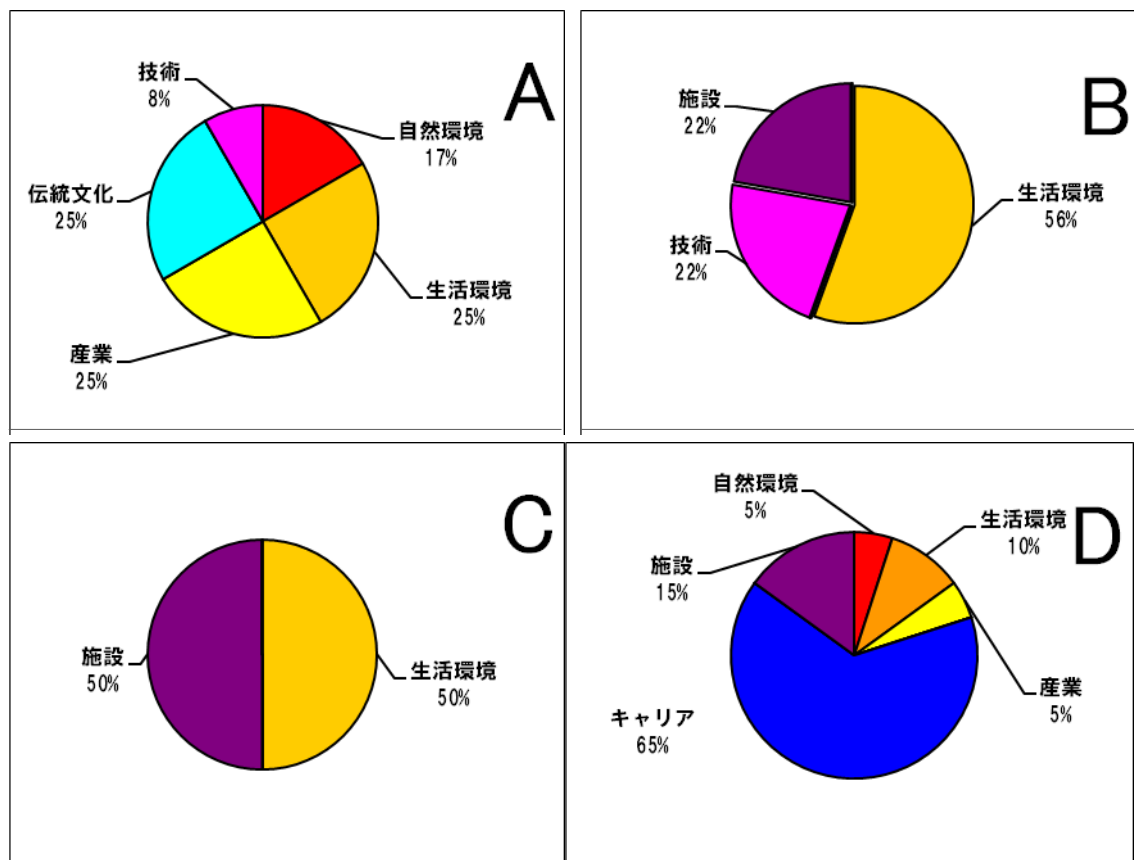


図11は前述した10の分類を類型別に整理したものである。まず産業の項目に着目して頂きたい、産業はCに多く分類しAにも分類していることがわかる。そして、施設はDとBに多い、このことから産業施設とともに、学ぶ目的はあるのだが多くの場合学区外などの遠くの施設を活用していることがわかる。施設や産業は、ゴミ処理場などの社会科見学といった共通した事例が多く、地場産業などを活用した教材はあまり見られなかった。中

には、地元の漁港と連携したものもあったが、より多くの学校での取り組みが図られる必要があるだろう。また、自然環境に着目するとAとBにほとんどが分類されていることから、各学校が身近な自然環境を積極的に学習に取り入れている姿勢がみて取れる。自然環境は、各学校にとって理科や生活科等の教科で活用しやすいものなのだろう。身近に咲く花や四季による移り変わりなど、実感を伴う学習のきっかけとなっていることがみて取れる。

図 12 中学校類型別割合



次に、図 12 の中学校類型別割合をみていく。施設の項目はAにはみられなく、小学校と同じように遠くに出向く傾向がある。やはり使える施設は限られているため学区内ではまかなえないのであろう。技術を見ると、AとBのみに分類されている、これは地域の人材を積極的に活用しているという結果であろう。そして、産業、自然環境はともにAとDのみに、伝統文化はAのみに分類されている。そこからわかることとして、中学校の地域教材の取り扱い方の傾向として二分化していることがわかった。それをわかりやすく言い換えるならば「学区内の地域特有のものを活用している」と「学区外の調べ学習を行う」である。産業の項目での前者の具体例としては、水産学習(学区内の漁業についての体験を伴い学習)、後者は、北海道を調べよう(根釧台地の調べ学習)、といったものである。

このように中学校は小学校と比べあまり地域というものを重視していないことがわかった。利用可能であれば利用するぐらいのスタンスなのであろう。中学校の実情、高校入試というものを鑑みると仕方のないことなのかもしれない。

図 13
小規模校類型別割合

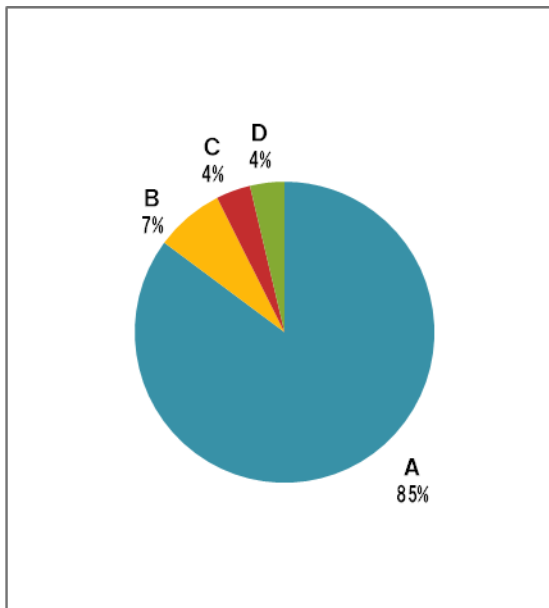
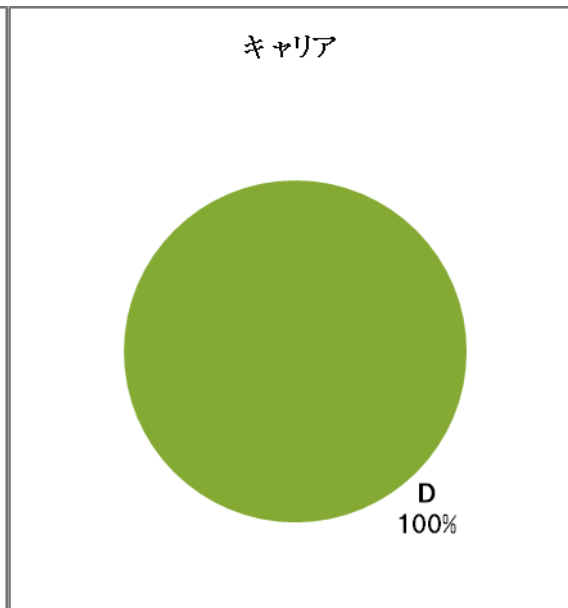


図 14
キャリアの類型別割合



小規模校での類型別割合のデータが興味深かったため触れていく。図 13 に着目して頂きたい。グラフを見てわかるように、Aが 85%とほとんどを占めていることがわかる。このデータから、小規模校では地域との連携が積極的に図られているのではないかと私たちは推測している。小規模校では、地域特有のものを住民との連携をいかしながら活用するというような実践例もみられた。学校が地域からきりはなされた存在になりつつある昨今で、小規模校の実践例というものは参考にすべきものである。

次に、キャリアの類型別割合である。図 14 をみていただければわかるように、Dが 100%である。キャリアは職業体験が大部分を占めており、地域内ではまかなえないので、地域性は度外視されているということがわかる。グラフには示されていないが、ほとんどが中学校での実践例であり、小学校と中学校のカリキュラムの違いが表れた分かりやすい事例である。

ここまで類型別整理に触れてきたが、多くのことがデータとして結果に表れた。小学校と中学校の差、学校の規模による取り組みの違い、取り扱う地域教材に対する各学校のアプローチの違い、多種多様な実践例がみられた。それは、学校を取り囲む環境の違い、カリキュラムの違い、学校自体の規模等の要因が少なからず絡んでくる。また、取り組みたくても取り組めない現状もあるとも考えられる。地域に目を向け、学校が地域の存在の一部となるために、教師は積極的に地域に飛び込む必要がある。

IV まとめと課題

私たちは、項目別整理と類型別整理という分類分けから以上のような結果を得た。私たちは調査前には今までの経験から、地域理解には体験的活動が最も効果があると考えていた。しかし、釧路市及び釧路町の学校では「釧路地方において釧路地方にあるものを取り扱っている」ということが本研究からわかった。もちろん類型別整理からわかるように、校区内という身近な地域でその地域特有のものを取り扱っている場合もあるが、私たちが率直に感じたことは、私たちが思い描いていた範囲より広い範囲において、あまり特有性のないものでも取り扱っているということである。

ここで少し話は変わるが、体験的活動は具体的にどのような点で地域理解に効果があるのだろうか。第一に挙げられるのは、自分ごととして地域を捉えられるということである。例えば、ある地域で地域の伝統である「獅子神楽」を調べる学習があるとする。教科書や資料に載っている過去の写真や映像を見るだけでは、実際に身近な地域で行われていたとしても、まだ遠くのここのように感じられる。そこで、実際に地域の人に教授し獅子神楽を体験することで、より獅子神楽が身近なものとして実感できる。他にも、五感で感じ、喜怒哀楽の感情を持って取り組めることから、より子どもの心に残るということも体験的活動のメリットといえるだろう。

つまり、体験的活動はより近い範囲で行われるべきだし、地域特有のものであるのが望ましい。地域の特有性の持たない活動、遠くで行われる活動を自身のことと置き換えて捉えることは難しいからである。そこから私たちは、「より身近な地域で行われる、地域特有の体験的活動」が最も子どもたちの地域理解に繋がるのではないかという結論を出した。地域を理解した子どもたちは、地域に愛着を持ち、地域の発展のための原動力になるはずである。

参考文献

- ・ 小学校学習指導要領 解説編 (平成 20 年 8 月)
- ・ 中学校学習指導要領 解説編 (平成 20 年 8 月)
- ・ 特別支援学校学習指導要領 解説編 (平成 20 年 8 月)